

C-47 衣服地の色相差による研究 — 着用実験に関連させて —

東京学芸大 ○中橋美智子

東京学芸大卒業生

岩崎京子

目的 直射日光下における衣服材料の吸熱性は、色相の相違により著しく左右される。本実験は、直射日光下における有効的な色相のあり方について、衣服地の色相差が人体におよぼす影響について明らかにし、その一方法として人体着用実験を行なったので、その結果を報告する。

方法 環境条件：高気温（30℃）、中等気温（20℃）

試料：高気温の場合—綿タッサー、中等気温の場合—ウールジョーゼット

色相 白・黒・緑の三種でワンピースを作製

実験項目：皮膚温、衣服気候、衣服下湿度、体温

各ワンピースを着衣し、太陽受光30分経過の実験を試みた。

結果 太陽受光下における色相による熱吸収率の相違が、温度変動の差となり皮膚温・衣服気候などにおよぼす影響が顕著に認められた。色相の相違による太陽熱の吸熱効果は、太陽熱量よりの計算値と実験値との間に一致性が認められた。今回の実験により太陽受光下における衣服地の色相は、防暑効果・保温効果の上から重要な役割を果たすことが実証された。